

平成30年8月8日

飯沼一元 様

株式会社 BS-TBS

制作局制作部 番組総合プロデューサー

初瀬川啓太

テレコムスタッフ株式会社

番組プロデューサー

山本玲実

平成30年7月14日放送の「諸説あり！」についてのお詫び

7月14日放送の「諸説あり！」については、番組趣旨の説明および番組の構成に問題があり、大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

以下に、ご迷惑をおかけしました経緯と、今後の私どもの対応について考えておりますことをご説明申し上げます。

1 本番組内容と取材の経緯について

今回、番組では「白虎隊」を取り上げ、その中心テーマとして、「一人生き残った隊士飯沼貞吉は、長州に行っていた」説に取り組むことにしました。そして、飯沼貞吉が一人生き残ったこととの関係で、ほかの隊士がどうなったのかを導入的に紹介しようと考え、「自刃」問題に触れることにしました。

「自刃」問題に関しては、定説ともいえるべき19人説、飯沼一元様の飯沼貞吉文書による16人説、井上昌威氏の6人説などがあることは存じておりましたが、この点は、「一人生き残った隊士飯沼貞吉は、長州に行っていた」説の前段と位置づけ、定説の19人説と、今年1月11日の朝日新聞で取り上げられ近年話題になっているとされる6人説を紹介すれば足りると考えておりました。

番組では、飯沼一元様に取材を申し込み、実際に取材させていただきましたが、その過程で、今回の取材の中心は「一人生き残った隊士飯沼貞吉は、長州に行っていた」説で、これに関する飯沼一元様のお考えをお伺いするものであること、および、この点の前段として「自刃」問題を取り上げ、19人説と6人説に触れる予定であることを、きちんとご説明申し上げておりませんでした。

結果として、飯沼一元様としては、番組で自刃16人説と長州に行った説とを取り上げるものと理解され、取材にご協力いただいたものと存じます。また、6人説を取り上げるとお分かりであれば、番組の構成や内容についてもご意見がおありであったと存じます。取材においては、16人説に関して詳細なご説明をいただいたにもかかわらず、このような放送になってしまったこと、まことに申し訳なく存じます。

今更ながらの反省ですが、取材申し入れに際しては、「一人生き残った隊士飯沼貞吉は、長州に行っていた」説に関する諸説を紹介するものであること、飯沼様の「自刃16人」説を取り上げる予定がないことを、きちんとご説明申し上げるべきでした。

それとともに、隊士の一人一人がどのような最期を遂げたかに思いを致すとき、死亡した隊士の原因を子細に検討することなく19人とする説や、6人説を取り上げて事足りたことは、皮相でありましたし、また飯沼一元様の研究のご業績を軽んじるものでした。少なくとも飯沼一元様のご説明を聞き終えた段階で、構成について再検討する必要性がありましたが、既定の構成に疑いを入れず制作・放送に至ってしまいました。

以上のとおり、番組の趣旨や構成などについてきちんとしたご説明を申し上げないまま、また、自刃16人説をご紹介しないまま放送に至り、飯沼一元様に多大のご心痛とご迷惑をおかけしましたことに、深くお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

また貴重な資料を撮影させていただいたにもかかわらず、「資料協力」としてお名前を番組でご紹介しなかったことは、まったく私どもの不注意で、本当に申し訳ありませんでした。お詫び申し上げます。

2 今後の対応につきまして

① 番組ホームページでの「自刃16人」説の紹介

いただいております資料などを基に、番組ホームページで「自刃16人」説を丁寧に紹介します。

また、飯沼貞吉証言を基に「自刃16人」説に立たれる研究者は、「自刃6人説」には否定的であることも明記いたします。

「飯沼様から資料を提供して頂いた」ことも明記します。

② 「謝罪広告」等につきまして

番組で「自刃6人説」を紹介しましたが、これは一つの説としてこのようなものがあると紹介したものであり、この説が正しいとしているわけではありません。まして、「自刃6人説」が正しいのか、正しくないのかを私どもが判定する立場でもありません。

従いまして、本放送に事実誤認があると言うことはできず、訂正ないし謝罪の放送をすることはできません。

③ 自刃説について正しく紹介する番組を制作放送することにつきまして

適切な機会があれば、番組で、白虎隊の自刃について取り上げて紹介することはあり得ると存じますが、現時点ではその制作は難しいと考えています。

④ 再放送はいたしません。

今回の件につきまして、取材に多くの時間を頂戴したにもかかわらず精神的にも物理的にも多大なご負担をおかけしたことについて、重ねてお詫びいたします。

草々